

# 多種多様、淡水魚たちの生態と生活史 淀川水系魚類名鑑

希少野生動植物保存推進員  
横山 達也

## コイ

*Cyprinus carpio*

日本で最もなじみのある川魚といえば、フナやメダカなどとともに、今回紹介するコイがあげられます。もともとは中央アジア原産とされていますが、様々な環境への適応性が高く、食用魚としても取り扱われ、また養殖や放流が盛んに行われてきたために、今では世界中に分布しています。日本のコイは中国から移入されたといわれていましたが、近年、琵琶湖など各地に野生型のコイが分布していることが、化石調査からも



春が産卵の時期  
バシャバシャと飛沫を上げて  
川を遡上する姿は必見

みつっており、もともと日本に自然分布していたとされています。川の中・下流や池、湖などの淡水域の流れが緩やかなところに生息しています。コイは外見がフナやソウギョによく似ていますが、口もとに2対のひげがあることで識別できます。体長



は、1メートル以上になり、雑食性で、貝類、昆虫類、甲殻類、水草など何でも食べます。口に歯はありませんが、のどに「咽頭歯」という歯を持っており、これで硬い貝なども砕いて食べることができます。寿命は少なくとも20年以上あり、まれに70年を超す個体もあるそうです。コイヘルペスというウイルスによる感染症が流行して約10年が過ぎ、また近年、各地でコイを放流するイベントがありますが、地域の固有種とは異なるコイやニシキゴイの放流は、もともといたコイと交雑させてしまったり、さらにコイヘルペスウイルスの拡散にもつながっています。このように安易にコイを放流することで、知らず知らずに自然破壊のお手伝いをしてしまうことになるので、地域の宝をみんなで大切に継承していきましょう！

under the water

the waterside

# 花想鳥感

四季折々、  
水辺の生物多様性

芥川緑地資料館 主任学芸員  
高田 みちよ

## 三川合流の背割堤

淀川ってどこからどこまでか、ご存じですか？ 淀川の源流は琵琶湖の流入河川だったり、奈良県の奥山だったり、流域ですが、そこは「淀川」ではありません。淀川の源流は支流のどこかにあたります。「淀川」という名前の川は木津川、宇治川、桂川が合流する、京都府八幡市と大阪府島本町の境の「三川合流」から大阪湾までです。



桜の名所として知られている背割堤



オドリコソウは  
そよ風に吹かれて  
華麗に踊る春の舞姫



以前は三川合流の上流側には巨椋池という浅い池がひろがっており、オグラヌマガイやオグラコウホネといった地名にちなんだ生物が生息していたそうです。1933年（昭和8年）から1941年（昭和16年）にかけて農地にするために干拓され、三川合流部は今の形になりました。4月は「背割堤」と呼ばれる堤防が桜の名所となっています。しかし巨椋池だったところの名残るか、この付近には他のところではあまりみかけない生きものがたくさん生きています。その一つがオドリコソウ。以前はそれなりにあちこちで見られた植物ですが、現在はちょっと珍しい植物になっています。しかし、ここ背割堤には群生しており、美しい白～ピンクの花を咲かせます。みなさんも桜だけでなく、春の可憐な小さな花にも目を向けてみてください。

the sky & land

水辺の

# 虫眼鏡

川に棲む水生生物の魅力的な生態

環境省 環境カウンセラー 川島 大助

## カゲロウの幼虫

寒さが緩み春が近づいてきました。そして、多くの水生昆虫は水中生活卒業シーズンになりました。今回ご紹介するカゲロウ類も春～初夏に水中での幼虫生活を終え、陸上で羽化します。この状態は成虫ではなく亜成虫と呼び、さらに脱皮して成虫生活を過ごす水生昆虫です。カゲロウ類の幼虫は腹部の側縁に肉眼でも分かるエラがついています。似ているカワゲラ類もエラがありますが、腹部ではなく胸部の脇にエラを持つため、簡単に見分けることができます。また尾毛は3本の種が多く（ヒラタカゲロウ属等は2本）、カワゲラは2本であるため見分けることができます。カゲロウ類の幼虫は、種類によって生活タイプが異なり、河底の礫や落ち葉の中を匍匐する匍匐型（マダラカゲロウ、ヒラタカゲロウの仲間など）、水中を泳ぐ遊泳型（チラカゲロウ、コカゲロウの仲間など）、砂底を掘って過ごす掘潜型（モンカゲロウの仲間など）があり、流れの早いところ、遅いところ、礫、砂、落ち葉、植生帯など種類により生息している環境は様々です。



1

- 掘潜型：モンカゲロウ
- 遊泳型：チラカゲロウ
- 匍匐型：マダラカゲロウ



2



3

長靴などで川に入り、浅瀬の石の裏側や落ち葉をタモ網で掬い上げると、大きく成長したカゲロウを見つけることができます！そして水の張ったバットなどにカゲロウを入れてみると、腹部のエラで呼吸している様子や、遊泳型であれば魚のように上手に泳ぐ様子を見ることができますよ！

the worst 100

侵略的外来生物

# 淀川ワースト100

アライグマ科 アライグマ  
*Procyon lotor*

淀川管内河川レンジャー 石山 郁慧



白色の顔に  
黒いマスク



尾はシマ模様

物をつかむのが上手く  
木にも登る

AN INVADER

北アメリカ原産で、頭胴長は41～60cm。尾の長さは20～41cm。体重は4～10数kg。前脚を器用に使い、農作物を食い荒らす被害が各地で問題となっています。「あらいぐまラスカル」の印象から、かわいい動物のように思われがちですが、非常に危険です。追いつめたりしなければ攻撃してくることはありませんが、もし遭遇したとしても、むやみに近づかないようにしましょう。噛む力がたいへん強く、爪も鋭いので要注意です。噛みつかれたり、引っ掻かれたりすると大ケガをします。また、アライグマカイチュウという寄生虫をもっていることがあり、人に感染すると重症化する恐れがあります。



動物園などの施設では、環境省の許可を得て特定外来生物を飼育。飼育個体は、餌を十分に与えられているので比較のおとなしい。  
上記2点の写真提供 / 錦 俊哉